

# 埼玉 **アーツシアター** 通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2013.3-4

NO. **44**

彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾

## ヘンリー四世

NINAGAWA 千の目 みなざし

宮沢りえ × 蜷川幸雄

コンドルズ『アポロ』 近藤良平 × 長塚圭史 対談

マギー・マラン『Salves —サルヴズ』

フランス音楽を楽しむ

2013.3-4  
 NO. **44**

03	TALK	NINAGAWA 千の目 第26回 宮沢りえ × 蜷川幸雄
06	PLAY	彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾 『ヘンリー四世』
08	PLAY	さいたまゴールド・シアター第6回公演 『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』
10	PLAY	『松竹大歌舞伎 市川亀治郎改め四代目市川猿之助襲名披露』
11	REPORT	さいたまネクスト・シアター稽古場見学会 / 第20回読売演劇大賞発表
12	DANCE	コンドルズ 埼玉公演2013新作『アポロ』 近藤良平 × 長塚圭史 対談
14	DANCE	マギー・マラン『Salves -サルヴズ』
16	MUSIC	フランス音楽を楽しむ -ドビュッシーとラヴェルの魅力-
18	REPORT	「MEET THE MUSIC ~アーティストが学校にやってくる!~」
19	REVIEW	2013.1-2 彩の国のアーツ
20		イベント・カレンダー / チケットインフォメーション 彩の国シネマスタジオ
23		THEATER BRIDGE



COVER  
 彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾  
 『ヘンリー四世』  
 吉田銅太郎 & 松坂桃李  
 Photo ©川田洋司 [mosa inc.]

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2013.3-4 No.44  
 編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団  
 Published on 15.March 2013 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation  
 ※掲載情報は、2013年2月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

公開対談シリーズ 第26回  
**【NINAGAWA 千の目】**

宮沢さんは美しい野犬ですよ

演出家の方を驚かせたいんです

YUKIO NINAGAWA

RIEMIZAWA



女優

演出家・彩の国さいたま芸術劇場芸術監督

# 宮沢りえ × 蜷川幸雄

今回のゲストは、近年ますます舞台での活躍が目覚ましい宮沢りえさん。  
 ご本人が登場するや少年のごとく照れまくる演出家の意外?な一面も垣間見え、  
 艶やかに微笑むりえさんとの対談はドギマギとスタートした。

Photo ©細野晋司

# YUKIO NINAGAWA

**蛭川(以下蛭)** 最近、宮沢さんと会うと緊張するんです。口数も妙に多くなるし、演出家として半分は失格ですね。

**宮沢(以下宮)** 大勢の前でデートしているみたいですね(笑)。蛭川さん、本当にお忙しそうですね。今年(2012年)は何本舞台をおやりになったんですか。

**蛭** 11本だそうですね。イヤですね、トシを取ったら急に売れたんです。宮沢さんもそういう、仕事の波はあるものですか。

**宮** はい。自分の意識の波もありますけど。今は舞台欲が猛然と沸いていて、来年(2013年)は舞台を3本やります。

**蛭** その中の1本は僕のですね(7月、Bunkamuraシアターコクーン『盲導犬』)。今年、唐十郎さんの『下谷万年町物語』という作品で初めて宮沢さんと仕事をしました。初演では李麗仙さんがやった役なんですけど、宮沢さんがもう素晴らしくて。真情を込めたセリフ、美しさ、そうしたものが演劇的にも完璧で、すごい女優さんだと思います。



「下谷万年町物語」(2012年 Bunkamuraシアターコクーン) Photo ©細野晋司

ながら稽古を見ていました。

**宮** あの時は自分でも怖くなるくらい、体力と精神力のぎりぎり限界のところまで稽古を重ねましたね。でも、「このくらいにしておこう」と加減してできるようなお芝居じゃなかったの。私にとっても忘れられない役です。

**蛭** 宮沢さんは稽古場で本気でやるから、ものすごく疲れると思うんです。それを間近で見るのは毎日至福の時間でした。藤原竜也君も西島隆弘君も一生懸命で、みんな燃えるような稽古場だったね。

**宮** そうですね。立ち稽古が始まってすぐ、まだみんなが手探り状態だった時に、藤原君が登場するシーンであり得ないくら

い舞台上にダイブしたんですよ。

**蛭** 池に飛び込む場面ですね。稽古場にマットレスは一応敷いてあるんですが、ものすごい勢いでジャンプしてましたね。

**宮** あの瞬間に私たちが目指すべき大きな道ができたと思っていて、藤原君にとっても感謝してらんです。ずっと蛭川さんとお仕事をしてきた藤原君のテンションが私たちの志をグッと上げてくれた気がして、すごく嬉しかった。

**蛭** 藤原君のああいいう真面目なところは、ちょっと初々しくていいですよ。

**宮** 蛭川さんに怒られる時はボロクソに怒られますけどね(笑)。

## 芝居に溺れはじめる

**蛭** 宮沢さんは野田(秀樹)さんとも仕事をしますよね。『透明人間の蒸気』(04年)を拝見しましたが、とても素敵でした。

**宮** ありがとうございます。

**蛭** 野田さんと僕はお互いに悪口を言いながら仲がいいという不思議な関係で、宮沢さんは野田さんの芝居には出るけれど、なかなか僕の芝居に出てくれなかったんです。「野田め、俺を差し置いて!」と(笑) 観に行ったら、ホンも面白かったし、宮沢さんが素敵で、またちょっと嫉妬しました。あれは楽しかったでしょう?

**宮** そうですね。それまで私は(坂東)玉三郎さんのお芝居などに出ていて、敷いてもらったレールの上を着実に歩いていくという作業だった気がするんです。でも『透明人間〜』の時は何もないところからみんなレールを少しずつ創っていくような、創作的活動を初めて味わいました。人前で心を裸にするというのは、普通に考えれば異様ですよ。でも、その異様さに取りつかれ始めたのがあのお芝居だったと思います。

**蛭** 舞台の奥から走ってくる宮沢さんがものすごく鮮やかな印象でした。大変だったんじゃないですか。

**宮** 稽古場を3周走ってからセリフを言うという稽古を延々とやりました。本番でどんな状況でも息が切れずにセリフが言えるように野田さんがトレーニングしてくれたんだと思いますけど、本当に鬼だと思いました(笑)。でも、走って出ていく時がとて



も楽しくて、あれが本当にお芝居に溺れていくスタートだった気がします。

**蛭** 野田さんの『THE BEE』(12年)での宮沢さんも、とても良かったんですよ。野田さんの稽古では台本のセリフは崩さないで覚えるんですか。

**宮** 一言一句、絶対に崩せないですね。「ね」と「の」が違うだけでも指摘されます。

**蛭** そうなんだ。台本を持ちながら稽古することはあるんですか。



**宮** そういう方もいらっしゃるんですけど、私は特に不器用なので、台本を持ちながら相手を見てセリフを言う、なんてことができないんです。セリフは稽古場に行く前に覚えるほうが断然やりやすいですね。蛭川さんのお稽古も、台本を持たないことが最初の条件ですよ。

**蛭** 自分の解決がつかないところを台本に視線をやることでごまかす俳優もいるんです。相手の目を見ない。それだと稽古全体のレベルが下がるので、僕はセリフは覚えてきてくださいと言っています。

**宮** やっぱり台本を持っていると、思いがけないことが起きないんですよ。

**蛭** そういう風に野田さんと僕は比較的同じような稽古のやり方なんですけど、人に

よって違うんですね。そのことは割に大きな意味がある気がするんです。宮沢さんは例えば玉三郎さんに代表されるような、きちんとオーソドックスに創り上げられる舞台から、野田さんのように全く違うやり方をするところに飛び込んでいくのに躊躇はなかったんですか。

**宮** 稽古場ではよく泣いていました。自分の自信がない部分をさらけ出すのはやっぱり恥ずかしいですし、人前で何かをやる

という羞恥心は今でもあります。それを自分で引きはがすことの痛さを生まれて初めて味わいましたね。その分、すべて終わった後の達成感や解放感は、一番大きかった気がします。でもそれを知ってしまうと、次はもっとそんな気持ちを味わいたいと、どんどんハードルが高くなって自分の首を絞めるんです(笑)。

## 熱きアングラへの憧れ

**蛭** 「下谷〜」の時に、宮沢さんのあるセリフが、ものを創っていく人間の背負うべきものを非常によく表していて、とても良かったんです。前回やった時には全然気づかなかった。宮沢さんは美しいだけじゃな

# RIE MIYAZAWA

くて、野犬がゴミ箱を漁るような——美しい野犬ですよ(笑)、底辺を生きる女の子の実感も出せるんですね。

**宮** 蛭川さんに「猥雑さがあるのが不思議なんだよな」と言われたのがとても嬉しかったんです。私は10代の頃からアンダーグラウンド・カルチャーに対する憧れがすごく強くて、原田芳雄さんや唐さんたちがいそうな場所に行ったら、大人たちに混じって70年代の話をワクワクしながら聞いていました。戦後しばらくしてみんなが何かをしでかそうという時代の中で、討論し合い、ぶつかり合い、何かが生まれていったことに憧れがあります。

**蛭** 酒を飲むとすぐケンカしてね。お金がないから、物を拾って芝居のセットに使うのは当たり前でした。そういう匂いや時代の空気も含めて、宮沢さんは憧れたんじゃないかと思うんですけど。

**宮** だから『下谷〜』の稽古場に状況劇場出身の六平(直政)さんや金(守珍)さんがいらしたのはとても大きかったです。1日に1エピソードくらい、唐さんや状況劇場の話をしてくださって。本番が始まってからも、藤原君も西島君も私も、皆さんの楽屋で話を聞いていました。エネルギーチャージの場でしたね。

**蛭** 宮沢さんも刺激的だっただろうし、そういうことに興味を持つということが、やはり稀有な才能だと僕は思っています。宮沢さんは自分で「こういう戯曲がやりたい」という希望はあるんですか。

**宮** もちろん、やったことのない作品にすごく興味はありますが、それよりも演出家の方に、「この役をやる宮沢りえを見たい」と思われるほうが嬉しいですね。想像を超えるようなことをして驚かせたい!という意欲が湧くんです。

**蛭** 外国の観客にもこんなに素晴らしい女優さんがいることをわかってほしいですね。これからまだまだたくさん仕事を一

緒にしたいと思っています。

**宮** こちらこそお願いします。最後に私から質問してもいいですか? 蛭川さんがものを創る時の一番の底力になるものは何ですか? 私の場合はコンプレックスもあるかなと思っていて、今まで自分が生きてきた中で欠けているものを埋めたい、はねのけていきたいという思いが原動力かもしれないな、と。野田さんは「コンプレックスを原動力にしていると限界があるのではないか」と話されていて。蛭川さんのエネルギーの核にあるものは何か、お聞きしようと思っていました。

**蛭** 僕もどちらかといえば宮沢さんに近いと思います。まだすごいものが出来ていない、僕の作品のすごさを本当には理解されていない、という思いがあるんです。この歳になってもそういうコンプレックスは十分に原動力になる。実はそんなつまらないものが自分をかき立てていると思うんですね。もっと世界中の人に「すごい」と言わせたい、そのためにもっといい演出ができないか、というのが原動力かな。いじましいんです。

**宮** いえ、とても魅力的です。  
**蛭** 格好いい言葉で終わっちゃうな(笑)。今日は本当にありがとうございました。  
**宮** ありがとうございます。(拍手)

[2012年12月16日  
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール]



みやざわ・りえ  
1973年東京都生まれ。88年、映画『僕らの七日間戦争』で女優デビュー。以降、幅広い分野で活躍を続ける。主な出演作に、映画『華の愛 遊園驚夢』(01)、『たそがれ清兵衛』(02)、『父と暮せば』(04)、『阿修羅城の瞳』(05)、『花よりもなほ』(06)、『オリオン座からの招待状』(07)、ドラマ『江〜姫たちの戦国〜』(11)など。近年の舞台では『透明人間の蒸気』(04)、『ロープ』(06)、『人形の家』(08)、『ハイパー』(09)、『ザ・キャラクター』(10)、『THE BEE』 Japanese Version (12)など。蛭川演出作品は『下谷万年町物語』(12)で初出演。4月『今ひとたびの修羅』(新国立劇場)に出演予定。国内外の映画賞、演劇賞を多数受賞。

『透明人間の蒸気』(2004年 新国立劇場) Photo ©谷古宇正彦



彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾『ヘンリー四世』

— 翻訳・松岡和子がナビゲート —

# 英国史を知らなくても 『ヘンリー四世』を楽しめる これだけの理由



## 史実+創作の絶妙バランス

シェイクスピア作品は「悲劇」「喜劇」「歴史劇」「ロマンス劇」の4ジャンルに分けられる。『ヘンリー四世』はシェイクスピアの母国、英国史を扱った歴史劇だ。西洋史好きならいざ知らず、よその国の歴史なんて何の知識もないけど大丈夫か、と一抹の不安が。しかし松岡さんによれば、「シェイクスピアの歴史劇の中でも最も史実離れが激しい」のが本作だとか。ヘン

リー四世とその息子ハル王子（後のヘンリー五世）は実在の人物だが、ハルの遊び仲間であぐらで寝るフォルスタッフには一応モデルはいるものの、ほとんど創作に近いという。つまり、史実にとらわれる必要はないわけだ。

「イギリス人は“若い頃は不マジメだったけど後に立派な王様になった”ハルが大好き。歴代国王の中でも特に名君と言われる国民的ヒーローです。でも、王子時代にこの作品に描かれるほど放蕩無頼なやんちゃをしていたかどうかは、実は霧の中。高等法院長をぶん殴って投獄されたという有名なエピソードだけど、公の記録には残っていません。そのハルと戦うホットスパーも、史実よりぐっと若くしています。シェイクスピアは劇構造と人物配置を優先させて、大胆に人物像を作り替えているんです。ほかに居酒屋の女将や、フォルスタッフのおバカな仲間のように、私たちに近い人間はだいたいシェイクスピアの創作です。歴史上の人物と史実

は要所で押さえながら、奔放に想像力を働かせて創作人物を織り込んでいる。特別な歴史劇ですね」

## クロスする「人生曲線」

フォルスタッフと放蕩三昧のように見えるハルだが、実は次期国王としての自覚は胸の中に秘めている。いよいよ王位を継ぐと、それまでのしがらみを全て断ち切る厳しさを見せる。『ヘンリー四世』はハルの成長物語でもあるのだ。一方、ハルの親分気取りで出世も間違いなしと目論んでいたフォルスタッフは、土壇場で手ひどい仕打ちを食らう。2人の人生曲線がクロスするクライマックスは目が離せない。仲間だと思っていたら成長してないのは自分だけ、なんて身につまされる話ではないか。

「今回は1部と2部をまとめて上演するので、ハルの“上昇”とフォルスタッフの“下降”という両方の軌跡を1度に辿れるのはとても面白いと思います。ハルの心情も様々な読み方ができるんです。フォルスタッフと遊んでいるハルも、一転して厳しく接するハルも、きっとどちらも本音。で

いよいよ4月に開幕が迫る『ヘンリー四世』。本来は2部に分かれた作品を、ぎゅっと1本に凝縮して上演する。タイトル・ロールは14～15世紀に実在したイングランド王だが、日本人にはいかんせん馴染みが薄い。とはいえ、「予備知識はなくても十分に楽しめます」と翻訳を手がけた松岡和子は太鼓判を押す。果たしてそのワケとは？

取材・文◎市川安紀

も、最後にフォルスタッフを“切る”時には心の中で泣いているかもしれない。そのハルの言葉をフォルスタッフがどんな顔で聞くのか、見もの、聞きものですね」

## 「本音の男」が羨ましい？

それにしてもこのフォルスタッフ、今回演じる吉田鋼太郎の言葉を借りれば「大酒のみの女好き、大ボラ吹き、の小心者」というハタ迷惑なキャラクターなのだが、シェイクスピア作品の中でも屈指の人気を誇る。『ヘンリー四世』を観たエリザベス一世が彼にいたく惚れ込んで、フォルスタッフを主役にした続編『ウィンザーの陽気な女房たち』を書かせたとも言われるほどだ。

「これほど本音の人はいない、ということでしょうね。結局はハルに拒絶されてしまうけど、王子のお気に入りとしてやりたい放題の生活を送ることができたんですもの。男の人は“こう生きられたらいいな”と思うんじゃないかしら。女にとっちゃ迷惑なだけだけど(笑)」

成長も学習も反省もせず、自分のやり方をあくまで変えない「究極の自由人」。周りにいても困るが、確かに羨ましくはある。

## 納得のタイトル・ロール

さて、ご存じのようにタイトル・ロールはハルの父ヘンリー四世。彼は先王から王

冠を奪った、言わばスネに傷持つ身。自身の後ろ暗さと相次ぐ内乱、さらに息子ハルの放蕩と悩みは尽きない。だがハルやフォルスタッフやホットスパーといった華やかな面々が縦横無尽に活躍できるのも、ヘンリー四世という土台がしっかりしているからこそだ。

「例えば『ジュリアス・シーザー』のシーザーも、すぐブルータスに暗殺されてしまう。でもブルータスたちが反乱を起こすだけの巨大な存在でなければ、ドラマが成り立たないんです。だからタイトル・ロールの意味がある。ヘンリー四世も同じです。彼にはいい台詞もたくさんあって、自分に対する苛立ちや不安、周囲への怒り、痛み、弱みといったものがよく書かれています」

ひとつ、ヘンリー四世の前名が「ボリングブルック」であることは知っておくといふようだ。王に反乱を起こすホットスパーが、王のことを「あのボリングブルックが」と呼ぶ場面がある。豊臣秀吉のことを「あの木下藤吉郎め」と蔑むようなものか。「あえて前名を呼ぶことで、王位の正当性を否定しているわけです。ただ唐突に“ボリングブルック”なんて名前が出てきてもお客さんにはわからないでしょうから、構



Prince Hal

成の河合祥一郎さんと蜷川さんとも相談して、どこかで工夫できないか考えます」

この一点を押さえれば、あとは“お勉強”せずとも理解できるようにちゃんと書かれているというから恐れ入る。「だからシェイクスピアは“大”大衆劇なんです」と松岡さんが力を込めるのも納得だ。

「一番大事な情報は、まずお客さんに提供するのがシェイクスピアのやり方。彼にとっては、お客様が神様なんです。鋼太郎さんのフォルスタッフはもちろん、松坂桃李さんのカッコいいハルも楽しみ。これがホントの“春風”ね(笑)」

春風を感じに、いざ劇場へ。



Falstaff

## Story

リチャード二世から王位を奪ったイングランド王ヘンリー四世は、長男ハル王子が悩みの種。飲んだくれの中年騎士フォルスタッフとつるんで放蕩三昧の日々なのだ。一方、王に不満を募らせたノーサンバランド伯とその息子ホットスパーたちは反乱を起こすが、奮起したハルがホットスパーを打ち倒す。やがてハルは死の床にある父から王冠を託され、ヘンリー五世となった。友人ハルの即位を喜んだフォルスタッフは勇んで駆けつけるが――。

ヘンリー四世  
(1367-1413)

## 公演概要

### 彩の国シェイクスピア・シリーズ 第27弾 『ヘンリー四世』

日 時：4月13日(土)～5月2日(木)

4月	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	5/1	2
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00		★	★		★	休	★	★	★	★		◎	休	★	★	★	★		★	★
18:00	★			★		休					◎		休					★		

◎：映像収録のため場内にカメラを設置いたします。

【さいたまアーツ・シアターライブ!!】  
全公演、開場20分前から劇場内情報プラザ等にて多彩なメンバーによるライブ演奏を行います。  
※稽古の進行状況により、今後、追加席を発売する場合もございます。発売情報については、決定次第、ホームページ、ツイッター等でお知らせいたします。

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
出演：蜷川幸雄  
制作：W.シェイクスピア  
翻訳：松岡和子  
構成：河合祥一郎  
演出：吉田鋼太郎、松坂桃李 / 木場勝己、立石涼子、星智也、矢野聖人、富樫真、磯部 勉、たかお鷹、辻 萬長、蜷川哲朗 ほか

チケット(税込) 好評発売中  
一般：S席 9,000円 / A席 7,000円  
B席 5,000円(学生2,000円)  
メンバーズ：S席 8,100円 / A席 6,300円 / B席 4,500円

# 初のパリ公演「さいたまゴールド・シアター」への大いなる期待

平均年齢74歳の高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」が、5月末から6月初め、フランスのパリ日本文化会館で『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』（清水邦夫作、蜷川幸雄演出）を上演することが決定した。5月中旬に本拠地の彩の国さいたま芸術劇場の大稽古場で7年ぶりに再演した後、パリ公演に挑戦し、帰国後は横浜市のKAAT神奈川芸術劇場、埼玉県熊谷市の大里生涯学習センターあすねっとで公演する。

文◎高橋 豊（演劇ジャーナリスト）

さいたまゴールド・シアターは、2005年、彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督に内定した蜷川が、就任後にまず取り組みたい事業として「年齢を重ねた人々が、その個人史をベースに、身体表現という方法によって新しい自分に会おう場を提供する」演劇集団作りを提案した。

翌06年2月、「55歳以上」だけを入団資格として、一般公募を開始。演劇経験の有無は一切問わなかった。20人の募集枠なのに、何と1200人を越す応募者があった。驚いたのは、多忙な演出家・芸術監督の蜷川が、応募した全員と面接を行ったことである。例えば第1次で書類選考するようなことは、「この人たちの人生を履歴書1枚で判断できない」と蜷川が避けたのである。

2週間にわたるオーディションによって、当時、55歳から80歳までの48人が選ばれ、同年4月に正式発足した。

筆者を含め、マスメディアは競うようにゴールド・シアターについて報道した。単なる高齢者の素人の演劇集団ではなく、翌07年の第1回公演に、岩松了の書き下ろし新作『船上のピクニック』、09年の第3回公演にケラリーノ・サンドロヴィッチ(KERA)の同じく書き下ろし『アンドウ家の一夜』など、若手・中堅の劇作家の新作に挑ませた積極性に、マスコミは心打たれたのである。

職業的な俳優とは違った価値を持ち、演劇の幅を広げ、21世紀という時代の高齢者の在り方を問いかける演劇集団として注目されたのだ。

私がゴールド・シアターに活目したのは、本公演の前に「Pro-cess」と名づけて実施した中間発表公演の舞台だった。

それが『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』である。1971年、現代人劇場が東京・新宿で清水作・蜷川演出のコンビで初演した作品だった。法廷で裁かれる孫を救おうと、老女たちが爆弾を手に乱入して占拠、逆に検事や判事の罪を糾弾し、肝心の孫たちまで裁き出すという先鋭的な「裁判劇」なのだ。終幕、老女たちは警察機動隊からの催涙弾や銃弾にさらされながら、若者たちに変身し、一斉射撃を受ける。初演は、緑魔子や真山知子らの若い女優と男優が老女に扮し、「引き抜き」の仕掛けで、老女から若者に変わった。

ゴールド・シアター版の『鴉よ〜』は、高齢者の団員が老女を演じるのだから、違和感は一切ない。老いはリアルであり、生活者として抱えた怒りや諦めの言葉は実体験の重み加わった。終幕の若者への変身は、ゴールド・シアターの団員が、NINAGAWA STUDIOの若い俳優たちと巧みに入れ替

わった。

率直に言って、初演を凌駕するような舞台だった。70年前後の若者たちの反体制運動への高揚と挫折が残るような初演に比べ、ゴールド・シアター版は、社会の現状に対する高齢者の怒りがきちんと表現されていた。

35年前の初演を観ている人ほど、感動できる舞台だった。蜷川は本作に関して、初めて理想的なキャストイングを組めたのではなかろうか。ゴールド・シアターの団員たちの個人史の深まりが舞台からよく伝わってきた。

今回のパリ公演は、中間発表公演から7年ぶりの再演となる。メンバーたちがどんな舞台を披露するか、楽しみである。

スタートして7年、ゴールド・シアターの見事な成熟ぶりにも触れたい。

前出の09年、KERA作『アンドウ家の一夜』は、恩師の危篤を機に50年ぶりに集まった人々を描き出し、老いと死について考えさせる好舞台だった。ユーモアと幻想を交えながら、高齢者も温かな気分になれる。

高齢のゴールド・シアターの団員は、どうしてもセリフが出てこないことがある。蜷川は、自身も含めて、スタッフが台本を片手に本番でもプロンプターを務めるようにした。



Pro-cess 公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』（2006年） Photo ©幸田 森

今、77歳の喜寿の蜷川だが、当時も70歳を越えていたから、ゴールド・シアターのメンバー資格は十分である。舞台のすぐ脇に立つ蜷川のプロンプトの声は客席によく通った。

俳優たちも、セリフ忘れなどの心配をあれこれせずに、舞台に集中できた。

この09年に、若者たちによる演劇集団「さいたまネクスト・シアター」が誕生。彩の国さいたま芸術劇場は、二輪の演劇集団を持つことになる。

12年10月、ゴールド・シアターは「ザ・ファクトリー」という新シリーズを立ち上げた(11月にネクスト・シアターも同じ企画で公演している)。演出を務めるのは、蜷川の演出補として数々の舞台を支えてきた井上

尊晶である。

ゴールド・シアターは、俳優陣と女優陣とに分かれ、それぞれ別の演目を演じた。男性がチャーホフ作『白鳥の歌』。これに対して女性は清水の名作『楽屋一流れ去るものはやがてなつかしき』。いずれも、劇場を舞台に、「俳優」という生き方の光と影を描く。

特に女性陣の『楽屋』は、複数でひとりの役を演じたり、逆にひとりで長セリフをしゃべるなど、高難度の舞台だったが、プロンプトの声もほとんど聞かずに、「女優」としての見事な成長ぶりが伺えて感心した。

蜷川は「老いを自然なものとして受け入れているゴールド・シアターの演劇の形を、フランスの観客にもぜひ観てほしい」と語る。初のパリ公演を大いに期待したい。



## ゼロからの勝負 蜷川幸雄

高齢者の演劇集団という世界でも類を見ないカンパニーとして、我々の行為がどれだけ普遍性を持っているのかをヨーロッパの観客に問いたいです。シェイクスピアもギリシャ悲劇も、海外公演はすべてゼロからのスタートでした。見知らぬ国からやって来た演劇が、いかに生き残り、評価を勝ち取るかがすべてです。記憶力・体力の低下、家族や介護の問題も含めて、人生をまるごとさらけ出すのが僕らゴールドのやり方。やってみなければわかりませんが、パリ公演を成功させ、やがてアジアでも公演できればと夢見ています。



第3回公演『アンドウ家の一夜』（2009年）

Photo ©宮川舞子



ザ・ファクトリー公演『白鳥の歌』（2012年）



ザ・ファクトリー公演『楽屋』（2012年）

## 公演概要

### さいたまゴールド・シアター第6回公演

#### 『<sup>からす</sup>鴉よ、おれたちは<sup>たま</sup>弾丸をこめる』

作：清水邦夫 演出：蜷川幸雄

出演：さいたまゴールド・シアター、さいたまネクスト・シアター

### ■埼玉公演

日 時：5月16日(木)開演19:00、17日(金)開演19:00、18日(土)開演14:00 / 18:00、19日(日)開演14:00

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場

※大稽古場の特設客席のため、椅子の形状が通常とは異なります。

チケット(税込)

全席自由 一般4,000円 メンバース3,600円

発 売 日：一般4月7日(日) メンバース4月6日(土)

### ■熊谷公演

日 時：6月22日(土)・23日(日)各日開演15:00

会 場：大里生涯学習センターあすねっと ホール

チケット(税込)

全席指定 一般4,000円 メンバース3,600円

発 売 日：一般4月25日(木) メンバース4月6日(土)

【神奈川公演】6月15日(土)開演18:00、16日(日)開演14:00 KAAT 神奈川芸術劇場大スタジオ

チケット(税込)

全席自由 一般・メンバースともに4,000円

発 売 日：一般4月7日(日) メンバース4月6日(土)

※財団チケットセンターでの取扱いあり。

※詳しくは、KAAT 神奈川芸術劇場 045-633-6500 にお問合せください。

【パリ公演】5月30日(木)～6月1日(土)パリ日本文化会館 大ホール

# 松竹大歌舞伎

恒例の『松竹大歌舞伎』が今年も登場！歌舞伎十八番と義太夫狂言の名作に加え、昨年四代目を襲名した市川猿之助の口上というお楽しみも。華やかな舞台をお見逃しなく。

## 市川亀治郎改め四代目市川猿之助襲名披露

市川亀治郎時代には彩の国シェイクスピア・シリーズ第23弾『じゃじゃ馬馴らし』（2010年）にキャタリーナ役で主演し、客席を大いに沸かせた新・猿之助。現代劇や映像でも八面六臂の活躍を続けているのはご存知の通り。もちろん歌舞伎役者としての才気煥発ぶりは言わずもがなで、長く続けた自主公演では毎回新たな挑戦を見せ、蛭川幸雄演出の歌舞伎『NINAGAWA 十二夜』ではイギリスの観客をも唸らせた。昨年6月に四代目猿之助を襲名し、さらなる飛躍に期待が寄せられている。



『義経千本桜』の狐忠信（市川猿之助）©松竹

そんな猿之助を中心とした今回の『松竹大歌舞伎』では、義太夫狂言三大名作のひとつ『義経千本桜』と、歌舞伎十八番の『毛抜』という人気演目が登場する。

昨年も『松竹大歌舞伎』で上演された『義経千本桜』だが、同じ演目でも様々な演出があるため見比べる楽しみがある。上演頻度の高い通称「四の切」（『川連法眼館の場』）は、猿之助の澤瀉屋型では仕掛けや早替りにもスピード感があり華やかだ。源義経の愛妾・静御前の付き添いで旅をしてきた家臣の佐藤忠信は、実は人間ではなく狐の子だった——というファンタジー。趣向の面白さだけでな



©松竹

く、鼓の皮にされてしまった親狐を慕う子狐の真情が胸を打つドラマでもある。猿之助演じる狐忠信は、機敏で愛嬌もたっぷり。緩急をつける語尾が特徴的な“狐言葉”など、目でも耳でも楽しませてくれること請け合いだ。

もう一作の『毛抜』は、荒唐無稽な大らかさにあふれた歌舞伎十八番。姫君の髪の毛が逆立つという奇病の原因を、市川右近扮する余寺弾正がスッキリ解決！ついでに悪者も懲らしめるというヒーローものである。とにかくこの弾正の

キャラクターが豪快で、若衆にも腰元にもちょっかいを出したり、考え事をしながらおもむくに特大毛抜でヒゲを抜いたり、シュールな行動から目が離せない。真相解決のカギが科学の力というのも意表を突く面白さで、荒事ならではの明るさを存分に堪能できる一幕だ。

さらには、亀治郎改め四代目市川猿之助襲名披露の口上が聞けるのも、またとない機会。めでたさと同時に、名前を代々受け継いでいくという伝統芸能の重みを、ずしりと感じ取れるだろう。

### 松竹大歌舞伎 市川亀治郎改め四代目市川猿之助襲名披露

日	時：7月24日（水）昼の部 12:00 / 夜の部 17:00
会	場：熊谷会館 ※当日は熊谷駅・熊谷会館間の臨時バスを運行します。
演	目：一、歌舞伎十八番の内『毛抜』一幕 二、四代目市川猿之助襲名披露『口上』一幕 三、三代猿之助四十八撰の内『義経千本桜 川連法眼館の場』一幕 ※夜の部は『毛抜』と『義経千本桜』の順番を入れ替えて上演致します。
出	演：市川猿之助、中村梅玉、市川門之助、市川右近 ほか
チケット（税込）	
一	般：特等席 6,000円 / 一等席 4,500円 / 二等席 2,000円 / おためし席 1,000円
メンバーズ	：特等席 5,400円 / 一等席 4,100円
発	売 日：一般 5月15日（水）メンバーズ 5月8日（水）

## さいたまネクスト・シアター第4回公演 『2013年・蒼白の少年少女たちによる「オイディプス王」』

# 稽古場見学会

Photo ©宮川舞子



右がオイディプス後の小久保寿人

普段は目にできない創造の現場を見られる貴重な機会として、毎回好評を得ている稽古場見学会。今回はさいたまネクスト・シアターの第4回公演『2013年・蒼白の少年少女たちによる「オイディプス王」』の稽古を、埼玉県内在住・在学の中学生・高校生が見学した。100名を超える応募者の中から当選した30名（男性9名・女性21名、中学生・高校生15名ずつ）が舞台両側から見つめる中、稽古がスタート。今回はオイディプス役とその義弟クレオン役をダブルキャストで稽古していたため、2バージョンを見てもらうことになった。

ネクストのメンバーたちが昨年4月から稽古に励んできた三味線の音色が見事に揃って稽古場に響きわたり、救世主オイディプスを求めるコロスの声が一段と高まる。と、川口寛のオイディプスが登場。クレオン役は小久保寿人だ。続いて2人の役を入れ替え、小久保オイディプ

スと川口クレオンの配役で、冒頭から同じ場面を演じる。若き王の凛々しさを感じさせる川口バージョン、王の気迫と疑心が伝わる小久保バージョンとまったく違う個性を見せ、それぞれの迫力に見学者も圧倒された様子だった。

休憩後の質疑応答コーナーでは、「コロスのセリフがなぜ揃うのか」「演じる際の感情コントロール法」など演技にまつわる質問のほか、俳優志望の高校生の進路相談、「高校生の時にやっておくべきことは？」といった問いも。平均年齢25歳、見学者と年齢の近い現役大学生もいる俳優たちが、「何でも経験」「多くの人と関わる」「当たり前のことを敏感に感じられるように。アンテナを張って生きる」など、自身の体験も交えて真摯に答えていたのが印象的だ。

生身の俳優がぶつかり合う演劇の迫力と、若き俳優たちの静かな情熱を、肌で感じてもらえたのではないだろうか。



三味線を弾くコロスが間近に

### アンケートより

「いきがそろっていて迫力があり、素晴らしい演技でした」  
「キャストの方々が神に語りかけている姿が心に残りました。三味線を弾きながら演技をするのはとても難しそう」  
「役者の方々が情熱を持って演じている姿が心に響きました」  
「未知の世界ですが、足を踏み出した！と感じることができました」  
「役者の方々が全身全霊でとりくんでいるのがひしひしと伝わってきて、頭の下がる思いです」  
「続きが気になるので完成した『オイディプス王』も見てみたい」

## 第20回読売演劇大賞発表!

第20回読売演劇大賞が発表され、財団主催公演について右記のとおり受賞しました。2月27日に行われた贈賞式には、1月に狭心症で心臓バイパス手術を受けた蛭川幸雄芸術監督が、元気な姿でさいたまネクスト・シアターとともに出席。記者からの「仕事はセーブするのか」との質問には「絶対に嫌です！」と答え、入院生活を経て、さらに創作意欲が増した様子で、「若者たちと勝負しながら、負けないジジイでいたいと思っています」と、4月開幕の『ヘンリー四世』への抱負を語りました。

- 大賞・最優秀演出家賞  
蛭川幸雄（『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』、『シンペリン』）
- 優秀作品賞  
さいたまネクスト・シアター第3回公演『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』
- 優秀女優賞  
大竹しのぶ（『シンペリン』ほか）
- 優秀スタッフ賞  
中西紀恵（『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』の美術）



贈賞式で受賞スピーチをする蛭川幸雄芸術監督

## ヒョロヒョロ担当

近藤 圭史がコンドルズにいたのは10年くらい前?

長塚 そう、2年くらいはいたかな。コンドルズを観て感動して、俳優なのにコンドルズのメンバーになってる小林顕作さんが羨ましかったんだよね。顕作さんが阿佐ヶ谷スパイダースの芝居に出てくれていた縁で、コンドルズの公演で宣伝のためのCMをやらせてもらったのが始まり。それから「出てもいいよ」となって。

近藤 圭史のヒョロヒョロ加減は、僕の中の「図鑑」に載せるのにいいかなって(笑)。

長塚 やる気まんまんて稽古場に行ったけど、待てど暮らせど稽古が始まらない。集まっても、ただおしゃべりしてるだけ。

近藤 まあ確かに、いまだにそういう時間は多いよね。

長塚 稽古場にずっといると出番がどんどん増えるんだよね。もちろん難しい踊りはやらせてもらえないけど。活躍どころは顕作さんが書く芝居の中になるかと思ったら、俺は常に上半身裸の奴隷の役。

近藤 ヒドいね(笑)。

長塚 当時はコンドルズの人気伸び盛りで、お客さんもノリノリだった。俺は



近藤良平(こんどう・りょうへい)

1968年生まれ。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。20カ国以上で公演、ニューヨークタイムズ紙絶賛、渋谷公会堂公演も即売満員にした男性学ランダンスカンパニー・コンドルズ主宰。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。NHK連続TV小説「てっぺん」オープニング振付。NHK総合「サラリーマンNEO」内「テレビサラリーマン体操」振付レギュラー出演。TBS系列「情熱大陸」出演。NODA・MAPの「THE BE E」で鮮烈役者デビュー。桜美林大学他、数々の大学で非常勤講師を務める。愛犬家。コンドルズ・バンドプロジェクト「ストライク」ではベース担当。

演劇のほうでわりと突っ張ってたから、チヤホヤされてんあ、って(笑)。そのうちみんな踊りが巧くなって、海外ツアーも始まっていたし、これ以上足も引っ張れないなと思って退いたんだけど。

近藤 そうだったんだ。

長塚 それからも個人的には良平さんと「また一緒にやりたい」って話はしてたよね。僕がコンドルズ公演にゲストで出たり、芝居のダンスパートを良平さんに振り付けてもらったり。「音のいない世界で」は首藤康之さんと良平さん、松たか子さんと僕の4人での共同作業だったけど、ダンス的な要素を無理に入れることはあまり考えてなかったな。

近藤 そこははじめからクリアだったね。こっちは思いのほか喋らされたけど。

長塚 首藤さんと良平さんのセリフが魅力的すぎて、稽古初日に僕と松さんはうろたえたよ。俳優とは違う生理で言葉を発するから、聞いたことのない響き方をしたりして面白いんだ。2人の身体性を活かして、予定調和じゃないコラボレートができたと思う。でも、セリフ覚えるのは大変だったでしょ。

「ロングバージョン」(2011年) Photo ©池上直哉



# コンドルズ『アポロ』 近藤良平 × 長塚圭史 コンドルズのみんなは良平さんの踊りが好きなんだ

さいたま恒例の公演も今回で7度目を数えるコンドルズ。2012年『十二年の怒れる男』に続き、待望の2013年新作タイトルは『アポロ』に決定! あの手この手で観客を楽しませる振付・演出の近藤良平と、現代演劇シーンに牽引する演出家の長塚圭史は旧知の間柄。実は長塚はコンドルズの舞台に出ていることもある。先ごろ、長塚演出による『音のいない世界で』(新国立劇場)でも共同作業を行った2人が、コンドルズの魅力について語り合った。



Photo © HARU

近藤 もう〜追いつめられたよ! 圭史の書くセリフはシンプルで根拠的で優しい言葉なんだけど、簡単そうで難しいの!

## 言葉と身体の間

長塚 最近の舞台を観ている、俳優が踊ることにちょっと違和感がある。セリフと動きを共存させるのはなかなか難しいな。

近藤 ダンス公演も最近はやけに喋るからね。「私の見た夢はナントカ〜」なんて言って踊り出すからイヤなっちゃう。自己完結型の喋りっていうか。言葉に対するダンサーの距離の取り方がちょっとヘンだと思うな。良くも悪くも言葉って強いから、実際に言葉を喋ると身体の言語よりもお客さ



んにクリアに響いちゃうんだ。ダンスのほうももっとフワッとしていて、想像力も働く気がする。身体と言葉を同等に使いすぎないように気をつけないと、って思うもん。長塚 コンドルズは演劇シーンが必ず入るけど、区別してるよね。近藤 そう。僕も映像をバックにして踊るとか、やろうと思えばできるけど、コンテンツラリーダンスみたいだし(笑)。映像、CM、コントと、全く別ものとしてやるほうが自分の中でゴチャゴチャしないんだ。新しく不思議なプラモデルを、みんなで一生懸命つくってる感じがかな。

## 公演概要

### コンドルズ 埼玉公演2013新作『アポロ』

日 時: 5月18日(土) 開演14:00/19:00、19日(日) 開演15:00  
※演出の都合により、開演時間を過ぎますと入場をお待ちいただく場合がございます。予めご了承ください。  
会 場: 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
構成・映像・振付: 近藤良平  
出 演: 青田潤一、石淵 聡(映像出演)、オクダサトシ、勝山康晴、鎌倉道彦、ぎたろー(新人)、古賀 剛、小林顕作、スズキ拓朗、田中たつろう、橋爪利博、平原慎太郎、藤田善宏、安田有吾(New Face)、山本光二郎、近藤良平

#### チケット(税込) 好評発売中

一 般: 前売4,500円/当日5,000円/学生席2,500円  
メンバース: 前売4,100円/当日4,500円  
※サイドバルコニー(学生席を含む)は、舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。

長塚 コンドルズが観やすいのは、そうやってハッキリ分かれてるからだと思う。僕が去年『ガラスの動物園』という芝居で(プロジェクト大山の)古家優里と一緒にやった時も、フィジカルなことはダンサーにしか要求しなかった。だって俳優がそれをやるとヘンだから。

近藤 でもさ、圭史の稽古を見てると、コンドルズは比べようがないくらい、いいかげんだよ。すごく時間をかけて煮込んでいくようなつくり方はコンドルズでは不可能だし、それを求めてもないけどね。

## ダンサー・近藤良平の魅力

近藤 今度またさいたまで新作やるんだけど、ここは劇場がいいんだ。

長塚 前も言ってたね。

近藤 大きい劇場の空間が、男十数人が立ってるだけで埋まるんだよね。その感覚がすごく面白い。今度のタイトルは宇宙船のアポロ13号から採ったの。月面着陸には失敗したけど奇跡的に帰還できたから、「成功した唯一の失敗例」とも言われてるんだって。さらに調べると、「アポロ」はギリシャ神話の神アポロンから名付けられて、これがイキのいい青年の神様。広がりがあるタイトルだから、悪くないかなって。長塚 面白くなりそうだね。コンドルズの

魅力はね、「もしかしたら自分もコンドルズになれるかもしれない」と思えるチームだってこと。観てると解放されるし、自分も舞台上で学ラン着て踊ってる気分になって興奮する。そういう爽快感があるから気持ちよく帰れるんだと思う。それともうひとつ。コンドルズの人たちはみんな、良平さんの踊りが好きなんだよ。振付家としてだけじゃなくて、「ダンサー・近藤良平」に対する熱いリスペクトが、コンドルズが長く続いている理由じゃないかな。

近藤 橋爪(利博)なんて、酔っぱらうと「良平が踊る限りオレは踊る」なんて言うんだよ。橋爪がそれを言うか、って(笑)。

長塚 いや、やっぱり感動するんだよ。良平さんがソロで踊る時は、みんなが舞台袖に集まって興奮しながら観てたもん。

近藤 そうかなあ?? それで圭史はさ、もし間違ってもまた機会があったら、踊ったりするの?

長塚 え、コンドルズでってこと? 面白いね、その話(笑)。



長塚圭史(ながつか・けいし)

1975年生まれ。96年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を旗揚げ。作・演出・出演をこなすほか、外部公演でも多岐にわたって活躍する。2008年に文化庁海外留学制度にて1年間ロンドンに留学、帰国後は「葛河思潮社」などさまざまなプロジェクトで精力的に活動を続ける。近年の主な舞台に、「浮標」(演出・出演)、『十一びきのネコ』『ガラスの動物園』(演出)、『南部高速道路』(構成・演出)、『荒野に立つ』『音のいない世界で』(作・演出・出演)などがある。朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、読演劇大賞優秀作品賞・優秀演出家賞受賞ほか受賞歴多数。

# マギー・マラン『Salves—サルヴズ』 アートや演劇のファンも魅了する、 マギー・マラン作品を楽しむヒント

文◎桂 真菜（舞踊・演劇評論家） Photo ◎ Jean-Pierre Maurin, Didier Grappe

## 独自のフィジカル・シアター

マギー・マランが手がける舞台は、身体・美術・衣装・思想などの諸要素が紡ぐ、空間全体が鑑賞の対象だ。1987年以来パートナシップを組む、作曲家ドゥニ・マリオットによる音楽も切り離せない。「踊る演技者」と呼びたいダンサーたちは、動きを精緻にコントロールしつつ、観客の内面を躍らせる。

妥協なく表現を探究する彼女は、実験的な振付に抵抗を覚えた観客が「ダンスらしいダンスを見せて！」とブーイングを送っても動じない。政治にも明晰な意識を保ち、弱者を踏みこむ権力に抗う作品を発表。果敢な創作姿勢について、筆者がインタビューした86年夏にマランは語った。「ダンスは単なる娯楽ではなく、視野を広げる芸術。矛盾だらけの世界は残酷で、解

決できない悲劇が山積みです。歴史や社会に対する疑問を、私は舞台を通して投げかけたい」

今日まで続く切実な思いの背景には、両親が独裁政権下のスペインを逃れフランスに亡命した事情もある。フランス南西部の都市トゥールーズで51年に生まれたマランはクラシック・バレエを習った後、70年に振付家モーリス・ベジャールがブリュッセルに開いた舞踊学校、ムードラへ。民族芸能や禅など幅広い文化を取り入れた授業で、ダンスを複眼的に捉える力を伸ばす。だが、若く美しいダンサーを重んじるベジャールの方針に賛同できず、若い仲間と独立。

振付家として頭角を現した作品は、白塗りダンサー10人が瀕死の老人に扮する『メイ・ビー』。81年の初演から30年を超えてなお力強い「コンテンポラリーの古典」となったダンス——初めて観た夜は驚いた。

幕開きでダンサー全員が叫ぶ。

「終わり、終わりだ、終わろうとしている。たぶん終わるだろう」(Fin, c'est fini, ça va finir, ça va peut-être finir.)\*

これは「ゴドーを待ちながら」などの不条理劇で知られるサミュエル・ベケット作の一幕劇『勝負の終わり』(Fin de partie/ 英題 Endgame)』、冒頭の台詞。May B と書く題名も、戯曲の「たぶん」を表す英語 maybe にちなむものだろう。不気味な朗唱で観客を震えさせてから、客席を睨むダンサーたちの瞳孔は「いずれ彼岸に、お前も渡るぞ」といわんばかりに、悪夢じみた舞台から現実を突きつけた。

テキスト、声、視線も使って観客を未知の領域に誘う作風は、現代美術や演劇の愛好家も魅了。仮面や肥満体型コスチュームなど、ダンサーの身体に負荷をかけて動きと造形を研究した時期もあった。パリ・オペラ座バレエ団やネザーランド・ダンス・

フランスを拠点に、1970年代から数々の衝撃作を発表し続けるマギー・マランの話題作『サルヴズ』(2010年)が、いよいよさいたまに登場。廃墟の中で展開するこの作品が、我々に投げかけるメッセージとは——。初来日公演『メイ・ビー』(81年)からマランに注目してきた桂真菜さんに読み解いていただいた。

シアター (NDT) などの名門に振付を委嘱される立場になると、上演スタイル改革の努力は怠らない。

## 怒りを改革のエネルギーに変換

不断の精進が開いたマラン演出・振付の快作が、6月に来日予定の『Salves—サルヴズ』(2010年初演)。同作には観客を苦境から救うヒントが光る。祝砲や一斉射撃を意味する仏語タイトル『Salves』にふさわしく、幾種類もの音が連なる舞台。その構成を深く楽しむ4本の鍵を紹介しよう。

まず絵画。3点の名画(複製を貼ったパネル)がダンサーの手から手へと渡る、あるいは壁から剥がれる。ピカソが『ゲルニカ』(1937)に叩きつけたのは、スペインの独裁政権を支持するナチス・ドイツ軍の古都ゲルニカ爆撃への怒り。ゴヤは『マドリッド、1808年5月3日(プリンシペ・ピ

オの丘での虐殺』(1814)を描き、ナポレオン軍が罪なき者を撃った行為を嘆いた。ドラクロワの『民衆を導く自由の女神』(1830)は七月革命に加わる市民を讃えるが、傷つき血を流す人物の存在は先の2点と共通。

続いて彫刻。ニューヨークやパリに立つ「自由の女神」像(のレプリカ)が舞台で滑り落ちる! この瞬間、89年6月4日に民主化を求める市民が中国人民解放軍に武力弾圧された、天安門事件を思い出す。血に染まる天安門広場で倒れた「民主の女神」像は、数日前に北京美術学院の学生が「自由の女神」像を模して作った希望のシンボルだった。

そして模型。キリスト像を吊るしたヘリコプター(ミニチュア)が、舞台を飛ぶ。「神を冒瀆した!」と聖職者やカトリック信者を憤らせた、フェリーニ監督『甘い生活』(1959)の「パチカンに向かうヘリコプター」の爆音を連想させながら。

最後に裸体。アフリカのコイコイ族の特徴をなぞる、褐色の肉襦袢に包まれたダンサーが登場する。誇張されたボディラインに、19世紀初頭にロンドンとパリで「ホットtentott・ヴィーナス」の異名で、死後も「展示」されたサラ・バールトマンの面影が過ぎる。

芸術の価値、自由の意味、宗教の役割、人間の尊厳……『Salves』を読み解く4本



の鍵を眺めると、マランの危惧が分かる。大量に複製されるうち、オリジナルにこめた画家の祈りも薄れた美術をめぐる場面の演出は、皮肉を帯びる。

いっぽう、「普通の暮らし」に潜む危機も暗示される。7人のダンサーが協力して組み立てた食卓の周囲を走るうち、ぶつかり合う。食器などのオブジェが壊れ、互いの対立が激化するなかから、異なる人間が集まる共同体に巢食う狂気が噴き出す。だが、このシーンは「平和なんて永遠に実現できない」と観客を悲観させるために編まれたとは思えない。むしろ、廃墟に向かう混乱を通して、マギー・マランは「神も国家も頼らず、現実を認めて生き延びる道を探そう」と呼びかけているのではないだろうか。

※「勝負の終わり/クラブの最後のテーブル(ベスト・オブ・ベケット2)、サミュエル・ベケット、安堂信也、高橋康也 訳」(白水社)より訳文を引用。ただし、太字および下線は筆者が加えた。

## 公演概要

### マギー・マラン『Salves—サルヴズ』

日 時：6月15日(土)・16(日) 各日開演15:00  
※上演時間約70分(途中休憩なし)  
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内ができない場合がございます。予めご了承ください。  
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール  
演出・振付：マギー・マラン  
出 演：カンパニー・マギー・マラン

チケット(税込)好評発売中  
一 般：S席5,000円/A席3,500円(学生2,500円)  
メンバーズ：S席4,500円/A席3,200円  
※A席サイドバルコニーのお席は、舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。



クロード・ドビュッシー (1862-1918) とモーリス・ラヴェル(1875-1937)は近代フランス音楽を代表する作曲家として知られる。ふたりは13歳年が離れていたが、どちらもパリで育ち、パリ音楽院で勉強し、作曲のローマ大賞コンクールに参加し、その後、パリを中心に活躍していた。

### 輝く花の都 19世紀末～20世紀初頭のパリ

19世紀末から第一次大戦が始まる1914年にかけて、パリは世界のなかでもとりわけ国際色豊かな都市だった。ヨーロッパの都市のどこも、パリほど富、文化、創造

性、教育機関、展覧会、販売網、交通網が発達しているところはなかった。ロンドンにはパリよりも人口が多く豊かだったが、劇場や新聞の数、また、学生、ジャーナリスト、文人、芸術家の数はロンドンよりもパリの方が多かった。

パリはまた、多くの外国人芸術家を引き寄せた。パリの展覧会に出品する画家の2割は外国人だった。画家や物書き、ジャーナリスト、詩人も外国から数多くやってきた。もちろん、音楽家もたくさんパリに来ていた。

また、パリでは19世紀後半に5回も万博が開かれたことも重要である。ほぼ11年に1度のペースで大規模な博覧会が行われていたのである。そこでは、さまざまな国の芸術が数多く紹介され、フランスの芸術家たちに大きな影響を与えた。

#### その頃ドビュッシーは

ドビュッシーは若手作曲家の登竜門であったローマ賞コンクールで大賞を獲得したが、そのまま成功への道をたどったわけではなく、最初は前衛作曲家として危険視される存在だった。彼は当初ワーグナーに心酔した後、「ワーグナーの先を」探し求め

るようになったが、自分のスタイルを確立する上で大きな武器となったのは、音楽以外の芸術から受けた刺激であり、異国の音楽から受けた刺激だった。

1889年のパリ万博で、ドビュッシーがジャワのガムラン音楽から大きな衝撃を受けたことは有名だが、彼はスペイン音楽やロシア音楽からも多くのものを学んだ。しかし、彼は異国の音楽を忠実に模倣したのではなく、その本質をつかんで自分の音楽語法に反映させた。

パリでドビュッシーは象徴派詩人マラルメの「火曜会」の常連だった。「火曜会」とは、火曜日の夜にマラルメの家の客間で開かれていた集いのことで、当時の一流の文学者や画家などが一堂に会したことで名高い。ドビュッシーはこの集いに参加していた唯一の作曲家だった。彼は1894年、マラルメの詩「牧神の午後」に触発されて作曲した《牧神の午後への前奏曲》を初演し、成功を収める。この作品によって、ドビュッシーはそれまでの伝統的な長調や短調のシステムから離れ、音色という要素の価値を高め、形式的にも自由でより即興的な要素を重んじた様式を作り上げた。調性、和声、リズム、旋律、形式、音色など、従来のアカデミズムの枠をさまざまな面で破っ

たこの作品によって、現代音楽への扉が開かれ、音楽に一大革新がもたらされた。作曲家としてのドビュッシーの地位は、1902年、オペラ《ペレアスとメリザンド》の初演が成功を収めたことにより、ようやく確固としたものになった。

#### 早くに自らの様式を 確立したラヴェル

このようにフランス音楽に新しい道を開いていくドビュッシーの姿を仰ぎ見ながら育ったのが、ラヴェルである。ラヴェルの方は早くから自分のスタイルを確立し、パリ音楽院在学中に《亡き王女のためのパヴァーヌ》をはじめ、個性的な作品を次々に発表していった。

ラヴェルが楽壇にデビューしたとき、彼はただちにドビュッシーの信奉者として分類された。実際、ラヴェルが1903年に発表した弦楽四重奏曲には、ドビュッシーがその10年前に発表した弦楽四重奏曲の影響が見られる。しかし、ドビュッシーもまた、ラヴェルから影響を受けており、それは、1900年以降のピアノ曲において特に顕著に見られる。結局、珠玉のピアノ名曲の数々が二人の筆から競い合うように生ま

れたのである。

#### ドビュッシーとラヴェル、 それぞれの音楽

ドビュッシーは「響き」そのものを重視する新たな表現法や形式を生み出し、それまで西洋音楽の中心となっていた機能と和声などの作曲上の慣習から音楽を解放した。これ以降、「音色」は音楽の表現要素の中心に位置づけられるようになった。ドビュッシーの音楽はいわゆる楽派を作らなかったが、彼が開発した数々の技法は当時から多くの作曲家たちに影響を与え、その流れは現代まで及んでいる。ドビュッシーの音楽はしばしば印象主義の絵画と関連づけて論じられてきたが、今日ではむしろ象徴派との関連で語られる。

一方ラヴェルは、ドビュッシーの影響を受けたとはいえ、生来の資質から古典主義的な傾向が強く、巧妙な書法を駆使した洗練された音楽を残した。ドビュッシーは「自由のなかに規律をみつけなければならぬ」と述べたが、ラヴェルの場合はその逆だった。彼は、規律のなかに自由を見出した。

ドビュッシーとラヴェルはひとつにく

くって論じられることが多いが、その作風は異なっている。ドビュッシーの場合、旋律の輪郭も調性も、しばしば定まらない。それに対して、ラヴェルの場合には、明確な旋律があり、その旋律は調性と旋法性が混合されている。不協和音はドビュッシーの場合柔らかく包まれているが、ラヴェルの場合は鋭い不協和音を用いる。形式に関して言えば、ドビュッシーは非常に自由であるが、ラヴェルは堅固な構成を好む、というように、まったく違った個性が見られる。しかし、二人とも方向性は違うが、華麗な色彩家で、和声と管弦楽の用法に大きな変化をもたらした。そして、フランス音楽の黄金時代を築いたのである。

*Claude Debussy*



*Maurice Ravel*



## フランス音楽を楽しむ

# —ドビュッシーとラヴェルの魅力

# Debussy et Ravel

選りすぐりの新鋭ピアニストが名を連ねるピアノ・エトワール・シリーズ。今年の3公演ではドビュッシーとラヴェルの代表的なピアノ作品を聴くことができる。4月のユジャ・ワンはドビュッシー《ピアノのために》とラヴェルの《ラ・ヴァルス》、5月のリーズ・ドゥ・ラ・サールはラヴェルの《鏡》とドビュッシーの《前奏曲集》の中から数曲、12月の大崎結真はドビュッシー《版画》とラヴェルの《水の戯れ》《夜のガスパール》を演奏する。ドビュッシーとラヴェルが活躍した頃のバリの様子やそれぞれの音楽の魅力についてご紹介しよう。

文◎井上さつき (音楽学)

# MEET THE MUSIC

～アーティストが学校にやってくる!～

Photo ©加藤英弘

「MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる!～」は、子どもたちに間近で音楽を体験してもらおうと、アーティストが劇場を飛び出し、小中学校に向いて音楽を届ける「出張ミニ・コンサート」。スタートから8年、これまで埼玉県内71校19,369人の子どもたちに音楽を届けてきた。

1月25日に訪れたのは埼玉県北西部の寄居町。町を流れる風布川とその源泉の湧水が名水百選に選ばれるなど豊かな自然に囲まれたこの町に、箏奏者の3人が伝統楽器の素晴らしさを紹介しようと、町立寄居小学校を訪れた。アーティストを出迎えたのは5年生の62人。コンサートが始まるやいなや、子どもたちは生音の響きに目を輝かせ、次々に演奏される《うさぎうさぎ》や《さくら変奏曲》、《春の詩集》など、箏の名曲に真剣な眼差しで耳を傾けていた。

箏の紹介の仕方も、親しみをもってもらえるようにと工夫がされている。「サーリン」や「ツルツル」といった箏独自の奏法の呼び方を、実際に音色を聴かせてからクイズ形式で子どもたちに答えさせたり、西洋音楽の五線譜とは全く異なる箏の楽譜を拡大して紹介したり。子どもたちひとりひとりが箏爪を指にはめ、実際に音を奏でる



箏の伴奏で元気にサンバを歌う子どもたち

コーナーも、とても楽しい体験となったようだ。

「箏を身近に生で聴いてほしくて演奏家になったので、子どもたちの前で演奏できて嬉しいです」(佐々井麻矢)、「子どもたちの反応が直に伝わってくるのがとても楽しいです」(平野寿里)。生音を体で感じ、箏にすっかり興味をもった子どもたちからは、「箏は何から出来ているのか」「十七絃の糸はどうして黄色いのか」「演奏中に糸が切れたらどうするのか」など様々な質問が飛び出し、それにひとつひとつ出演者が



箏爪をはめて音を出してみよう!

丁寧に答えていた。最後は箏の伴奏で、子どもたちが普段歌っている《帰りの会のサンバ》を合唱。箏がサンバの速いリズムを軽やかに演奏するのも子どもたちは驚いた様子だった。

「伝統楽器は堅苦しい、敷居が高いと思われがちだけど、自国の楽器に小さい頃から触れる機会が少ないのは世界をみても日本くらい。小さい頃から伝統楽器に親しむ機会をどんどん増やしていきたい」(吉川由里子)。舞台芸術への興味の芽はすぐには芽吹かなくても、まずは心に何かを残すことができたら——。そんな願いを胸に、来年度もアーティストたちが8つの小中学校を訪れる。

## アンケートより

「楽器体験をして、力を入れてひかなければ音が鳴らないんだ、琴はとてもおもしろい楽器なんだということがわかりました」  
 「美しい、すごい音が聞けて、目で耳で体験できました」  
 「音は一つしかないと思っていたけど、いっぱいあるし、音の名前まであるとは初めて聞きました」  
 「あの速いテンポの《帰りの会のサンバ》を和楽器で美しくひいていることにびっくりしました」



# REVIEW

## 2013.1→2

彩の国のアーツ

PLAY 2月14日～24日

## さいたまネクスト・シアター第4回公演 『2013年・蒼白の少年少女たちによる 「オイディプス王」』

宿業に苛まれるオイディプスを筆頭に、パチさばきも鮮やかに迫力の三味線を聞かせたコロスに至るまで、重厚長大なギリシャ悲劇のイメージを覆す疾走感と熱気渦巻く舞台となった。「私たちはまだ若いのです!」と叫ぶ民衆=コロスの切望を一身に受けるオイディプスもまた若く、絶対的カリスマではない。自分自身の在処に迷い、恐れ、不安と怒りを闘い馴れせない人間味あふれる王を、川口寛と小久保寿人がそれぞれの個性で体現してみせた(ダブルキャスト)。スピード感あるコロスの朗誦はささやき声であっても言葉がしっかり耳に届き、三味線と共に地道な稽古の賜物といえる。若き集団に相応しいギリシャ悲劇の誕生である。

Photo ©宮川舞子



※関連記事

「稽古場見学会REPORT」「第20回読売演劇大賞発表」はP.11参照

MUSIC 1月7日

## 埼玉会館ニューイヤー・コンサート ウィーン・MARO・アンサンブル



N響のコンサートマスター「MARO」こと篠崎史紀が、N響の精鋭メンバーを率いて、シュトラウス作品を中心としたウィーン・ワルツを円熟の演奏で聴かせた。前半は弦の五重奏で悠々と、後半は管楽器も加わった九重奏でぐんと華やかに、ランナーやジーンズインスキー、レハールの名曲も交え、醸し出される空気はウィーンさながら。出演者のトークも好評で、リラックスした雰囲気の中、ウィーンの調べを存分に堪能できる演奏会となった。

Photo ©加藤英弘

DANCE 1月26日・27日

## アクラム・カーン 「DESHーデッシュ」



バングラデシュ系イギリス人のカーンが、2つの国と文化の中に生きる自身の存在を見つめ直す自伝的物語。思い出の中の父との会話、バングラデシュの独立運動、祖国の美しく豊かな自然の風景。緻密で大がかりな映像と幻想的な美術、胸の深部に響く音楽が、作品世界を視覚的にも思想的にも深化させる。内省の旅路、自分の内に確固たる何かを築いていくカーンの身体は次第に大きくなり、そして強さを増していく。舞台上に一人立つカーンの、全てをさらけ出し自己に向き合う姿に胸を打たずにはいられなかった。

Photo ©池上直哉

MUSIC 2月9日

## 小曾根 真の現在 Vol.3 デュオ with エリス・マルサリス



惜しまれつつ迎えたシリーズ最終回のテーマは「原点回帰」。自身のルーツである「JAZZ」のナンバーを、生きる伝説エリス・マルサリスとのデュオで紡ぐ。二人の心が行き交い、瞬間的に生まれる極上のスウィングは、何の術もない、理屈抜きに愉快と爽快さに溢れていた。演奏が進むにつれて二人の親密さは増し、その心地よさはステージから客席へ。共鳴しあう二人の新鮮な驚きと発見に満ちた音楽は聴衆を巻き込み、会場全体が「JAZZ」を体の奥底で楽しみ喜びに浸っていた。

Photo ©加藤英弘

DANCE 2月10日・11日

## 日本昔ばなしのダンス 近藤良平「モモタロウ」× 伊藤千枝「わらしべ長者」

子どもと大人と一緒に楽しめる大人気シリーズの新作、伊藤千枝のアレンジが加わった「わらしべ長者」は、物が物へと交換されていく様子をコミカルに繰る。舞台後方の大きな山が、終盤、きらきらした宝箱へと変わる仕掛けもあり、カラフルで見た目にも楽しい舞台となった。近藤良平の「モモタロウ」は、ひねりを加えたいわば「裏桃太郎」。鬼の生態、鬼の生活にまで想像を広げ、ユーモアたっぷりのステージに会場は笑いに包まれた。

Photo ©Matron



伊藤千枝「わらしべ長者」



近藤良平「モモタロウ」

★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場で開催。

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA	
3	march	開演時間	休館日	開演時間	休館日	3	march
15	金		休館日(熊谷会館)			15	金
16	土					16	土
17	日					17	日
18	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			18	月
19	火					19	火
20	水祝					20	水祝
21	木		休館日(埼玉会館)			21	木
22	金					22	金
23	土					23	土
24	日					24	日
25	月					25	月
26	火					26	火
27	水					27	水
28	木					28	木
29	金					29	金
30	土					30	土
31	日					31	日
1	月					1	月
2	火					2	火
3	水					3	水
4	木					4	木
5	金					5	金
6	土					6	土
7	日					7	日
8	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			8	月
9	火					9	火
10	水	18:00				10	水
11	木	13:00				11	木
12	金	13:00	休館日(熊谷会館)			12	金
13	土	13:00				13	土
14	日	13:00				14	日
15	月	13:00	休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			15	月
16	火	18:00				16	火
17	水	13:00				17	水
18	木		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			18	木
19	金	13:00				19	金
20	土	13:00				20	土
21	日	13:00				21	日
22	月	13:00				22	月
23	火	18:00				23	火
24	水	13:00	休館日(埼玉会館)			24	水
25	木					25	木
26	金	13:00				26	金
27	土	13:00				27	土
28	日	13:00				28	日
29	月祝	13:00				29	月祝
30	火	18:00				30	火
1	月	13:00				1	月
2	火	13:00				2	火
3	水祝					3	水祝
4	土祝					4	土祝
5	日祝		休館日(熊谷会館)			5	日祝
6	月祝					6	月祝
7	火					7	火
8	水					8	水
9	木					9	木
10	金					10	金
11	土					11	土
12	日					12	日
13	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			13	月
14	火					14	火
15	水					15	水
16	木	19:00				16	木
17	金	19:00				17	金
18	土	14:00/18:00	18	14:00/19:00		18	土
19	日	14:00	19	15:00		19	日
20	月		休館日(熊谷会館)			20	月
21	火					21	火
22	水					22	水
23	木					23	木
24	金					24	金
25	土					25	土
26	日					26	日
27	月		休館日(彩の国さいたま芸術劇場)			27	月
28	火					28	火
29	水					29	水
30	木					30	木
31	金					31	金

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭  
~彩の国落語大賞受賞者の会  
桂 文治

夏の四季彩亭は、平成23・24年度彩の国落語大賞を見事受賞した桂 文治の会。どうぞお楽しみに。



チケット発売日 一般：4月20日(土)  
メンバーズ：4月13日(土)

日時：7月21日(日) 開演14:00  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演：桂 文治、笑福亭鶴光(ゲスト) ほか  
チケット(税込)  
一般3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引  
(65歳以上・障がい者) 2,000円

MUSIC

埼玉会館ファミリー・クラシック  
熊谷会館ファミリー・クラシック  
夏休みオーケストラ!

大人から子どもまで、オーケストラの魅力を感じることができる人気企画。今年は浦和と熊谷の2会場で開催!



チケット発売日 一般：4月20日(土)  
メンバーズ：4月13日(土)

日時・会場：  
8月24日(土) 開演14:00 埼玉会館 大ホール  
8月25日(日) 開演15:00 熊谷会館 ホール  
出演者：飯森範親(指揮)、朝岡 聡(ナビゲーター)、清水 伶(フルート/第66回全日本学生音楽コンクール全国大会フルート部門 中学校の部第1位)、東京交響楽団(管弦楽)  
曲目：ワーグナー/ワルキューレの騎行  
♪みんなで歌おう&演奏しよう!  
シャーマン兄弟/小さな世界(イツツ・ア・スモール・ワールド)  
スメタナ/交響詩《モルダウ》ほか  
チケット(税込)：  
一般：大人 S席3,500円/A席3,000円 子ども(3歳以上中学生以下) S席1,500円/A席1,000円  
メンバーズ：大人 S席3,200円/A席2,700円  
※3歳未満の入場はご遠慮下さい。

PLAY

さいたまゴールド・シアター第6回公演  
『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

チケット発売日 【埼玉・神奈川公演】  
一般：4月7日(日)  
メンバーズ：4月6日(土)  
【熊谷公演】  
一般：4月25日(木)  
メンバーズ：4月6日(土)

PLAY

松竹大歌舞伎  
市川亀治郎改め  
四代目市川猿之助襲名披露

チケット発売日 一般：5月15日(水)  
メンバーズ：5月8日(水)

MUSIC

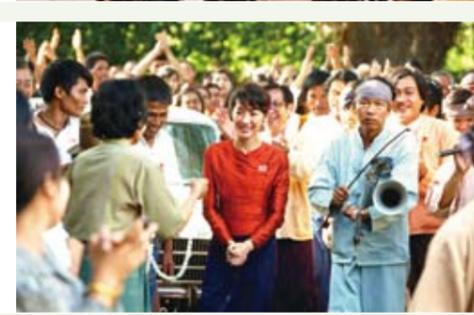
ピアノ・エトワール・シリーズ  
Vol.23 大崎結真

チケット発売日 一般：5月25日(土)  
メンバーズ：5月18日(土)

LINE UP 2013.4→6 会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
料金：大人1,000円 小中高生800円(当日支払いのみ)



4月12日(金)~14日(日)  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
『拝啓、愛しています』  
12日(金) 10:30 / 13:30 / 16:30 / 19:30  
13日(土) 10:30 / 13:30 / 16:30  
14日(日) 10:30 / 13:30 / 16:30  
監督：チュ・チャンミン  
原作：カン・ブル  
出演：イ・スンジェ、ユン・ソジョン ほか  
(2011年/韓国/118分)



5月10日(金)~12日(日)  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
『The Lady アウンサンスーチー ひき裂かれた愛』  
10日(金) 10:30 / 14:30 / 18:30  
11日(土) 10:30 / 14:00 / 17:30  
12日(日) 10:30 / 14:00 / 17:30  
監督：リュック・ベッソン  
出演：ミシェル・ヨー、デヴィッド・ジュリス ほか  
(2011年/フランス・イギリス合作/133分)  
PG12



6月14日(金)~16日(日)  
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール  
『天地明察』  
14日(金) 11:00 / 14:30 / 18:30  
15日(土) 10:30 / 14:00 / 17:30  
16日(日) 10:30 / 14:00 / 17:30  
監督・脚本：滝田洋二郎  
原作：沖方 丁「天地明察」(角川書店刊)  
出演：岡田准一、宮崎あおい ほか  
(2011年/日本/141分)

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ  
Vol.21 ユジャ・ワン  
Vol.22 リーズ・ドウ・ラ・サール  
Vol.23 大崎結真  
アンコール! Vol.2 北村朋幹

日時・曲目：  
【Vol.21】4月20日(土) 開演14:00  
ラフマニノフ/ソナタ第2番 変口短調  
作品36(1931年改訂版) ほか  
【Vol.22】5月26日(日) 開演15:00  
プロコフィエフ/トッカータ 作品11 ほか  
【Vol.23】12月1日(日) 開演14:00  
デュティユー: ピアノ・ソナタ ほか  
【アンコールVol.2】  
2014年3月15日(土) 開演14:00  
ベートーヴェン/ソナタ第29番  
「ハンマークラヴィア」ほか

会場: 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
チケット(税込):  
【4公演セット券】一般・メンバーズ: 正面席13,000円 ※残席僅少  
【1回券】  
【Vol.21】一般: 正面席4,500円 メンバーズ: 正面席4,100円 ※残席僅少  
【Vol.22・Vol.23・アンコールVol.2】一般: 正面席3,500円/バルコニー席2,500円(学生1,000円) メンバーズ: 正面席3,200円  
※Vol.21、Vol.22は1回券発売中。Vol.23以降の1回券は順次発売します。  
※4公演セット券、Vol.21、Vol.22の1回券のバルコニー席・学生席は予定枚数終了。  
※4公演セット券は4月19日(金)まで、もしくはVol.21のチケット予定枚数終了までの発売となります。

MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン  
《ヨハネ受難曲》

日時: 3月30日(土) 開演16:00  
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール  
出演: 鈴木雅明(指揮)、ジョアン・ラン(ソプラノ)、青木洋也(カウターテナー)、ゲルト・テュルク(テノール)、ドミニク・ヴェルナー(バス)  
チケット(税込)  
一般: 正面席8,500円 メンバーズ: 正面席8,000円  
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾  
『ヘンリー四世』

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭  
～柳亭市馬と若手落語家競演会

日時: 4月21日(日) 開演14:00  
会場: 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール  
出演: 柳亭市馬、三遊亭兼好、春風亭一之輔、三笑亭夢吉、柳家わさび  
チケット(税込)  
一般3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

DANCE

コンドルズ 埼玉公演2013 新作  
『アポロ』

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第22回  
NHK交響楽団メンバーによる  
金管五重奏

日時: 6月4日(火) 開演12:10  
会場: 埼玉会館 大ホール  
出演: 関山幸弘(トランペット)、菊本和昭(トランペット)、今井仁志(ホルン)、新田幹男(トロンボーン)、池田幸広(チューバ)  
曲目: ロドリゴ/《アランフェス協奏曲》より 第2楽章  
ブラームス/ハンガリー舞曲第6番 ほか  
チケット(税込)  
全席指定1,000円

DANCE

マギー・マラン  
『Salvesーサルヴス』

【謹告】

「ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ」公演中止について

2月2日に予定しておりました「ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ」につきまして、ラファウ・ブレハッチ氏がインフルエンザを発症したため、彩の国さいたま芸術劇場公演を含む日本ツアー全公演が中止となりました。公演を楽しみにして下さった皆様に謹んでお詫び申し上げます。

「村治佳織の現在 Vol.1 デュオ with ヴォルフガング・シュルツ」出演者変更について

3月2日に予定しておりました「村治佳織の現在 Vol.1 デュオ with ヴォルフガング・シュルツ」につきまして、出演を予定していたヴォルフガング・シュルツ氏が医師からの指示により来日できなくなったため、マティアス・シュルツ氏に変更いたしました。村治氏とヴォルフガング・シュルツ氏の共演を楽しみにお待ちいただいていた皆様に謹んでお詫び申し上げます。

[チケットの購入方法について]

インターネット



「SAF オンラインチケット」で、発売初日 10:00 から公演前日 23:59 まで受付いたします。

トップページの「チケット購入」からお進みください。  
【PC・スマートフォン】 <http://www.saf.or.jp/>  
【携帯】 <http://www.saf.or.jp/mobile/>



電話予約

●チケットセンター  
**0570-064-939**  
10:00 ~ 19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)  
※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

窓口販売

下記窓口で直接購入いただけます。  
電話予約したチケットの引取もできます。  
●彩の国さいたま芸術劇場 (10:00 ~ 19:00)  
●埼玉会館 (10:00 ~ 19:00) ※休館日をお確かめのうえ、ご来場ください。  
●熊谷会館 (10:00 ~ 17:00)

【クレジットカード決済→コンビニ発券】  
※チケット代のほかに、【チケット一枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】  
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円 (代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット1枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【クレジットカード決済→宅配便で配送】  
※チケット代のほかに、【配送1件につき】配送料 300 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】  
※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円 (代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット1枚につき】システム利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【窓口で支払い・引取り】 ※手数料はかかりません。

現金もしくはクレジットカード決済、その場でチケットをお渡します。  
※手数料はかかりません。

財団メンバーのお客様は、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

THEATER BRIDGE

Information

【受講生募集】オルガンをまるごと体験！  
～みんなのオルガン講座～

普段あまり馴染みのないパイプオルガンという楽器。彩の国さいたま芸術劇場では、ポジティブ・オルガンを使って、皆様にパイプオルガンに親しんでいただける講座を2006年に開始、オルガンのしくみや歴史についてのお話を聞くレクチャーや、レッスンを通して演奏を学ぶコースを開設しています。ジワジワとパイプオルガンのファンを増やしているこの人気講座。ふるってご応募ください！



Photo ©加藤英弘

Information

平成23・24年度彩の国落語大賞を  
桂 文治さんが受賞しました！

平成10年から続く「彩の国落語大賞」は、公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団主催の「彩の国さいたま寄席～四季彩亭」に出演した若手落語家のうち、年間でも優れた演者に贈られる賞です。平成23・24年度の受賞者は、2012年1月の「新春落語特選会」に出演されました桂文治に決定いたしました。7月21日に開催する「彩の国落語大賞受賞者の会」は、笑福亭鶴光をゲストにお迎えしてお贈りします。どうぞお楽しみに！



Photo ©加藤英弘

「彩の国さいたま寄席～四季彩亭  
彩の国落語大賞受賞者の会 桂 文治」  
※詳細はP.21にて

Information

彩の国さいたま芸術劇場が、  
「省エネ・照明デザインアワード2012」  
優秀事例受賞しました

環境省による、優れた省エネ効果と高いデザイン性の両立を達成している施設を表彰する「省エネ・照明デザインアワード2012」公共施設・総合施設部門で、彩の国さいたま芸術劇場が優秀事例として表彰されました。劇場としての特殊性から、光の質(演色性、陰影、色温度など)にこだわった器具の選定や、現地試験を繰り返し創り上げた照明デザインの美しさが評価されました。



Photo ©小川重雄

ACCESS MAP アクセスマップ

【彩の国さいたま芸術劇場】



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1  
電話: 048-858-5500 (代) ファックス: 048-858-5515  
●電車でのアクセス  
→ JR 埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分  
●バスでのアクセス  
→ JR 京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

【埼玉会館】



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4  
電話: 048-829-2471 (代) ファックス: 048-829-2477  
●電車でのアクセス  
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

【熊谷会館】



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広 3-9-2  
電話: 048-523-2535 (代) ファックス: 048-523-2536  
●電車でのアクセス  
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

## サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行  
(株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバシステム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや  
森平舞台機構(株) / 東芝エルティエエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / ゲレツ・ジャパン・スズケン(株) / 武蔵野銀行  
浦和ロイヤルバインズホテル / アルビーノ村 / 国際照明(株) / 三国コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル / 橋本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工  
(株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動産発(株) / ビストロ やま / 埼玉信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株)  
(株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株) / ボラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所  
(株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株)  
ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション  
広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) コマーム / (株) 国大セミナー / (株) NEWS エンターテインメント / (株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株)  
医療法人 樺会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社 / (株) セノン / 東京新聞ショッパー  
(株) 松尾楽器商会 / (有) 中央舞台サービス / JA 埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部 / (株) 川口自動車交通 / (株) ホンダカーズ埼玉 / ファミリーマートあすまや  
(株) セブンドリーム・ドットコム / (有) 杉田電機

H25.2.25 現在 / 一部未掲載

【問合せ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



## フォルスタッフはシェリーがお好き



.....  
ワイン片手にご満悦のフォルスタッフ  
(Grützer 画 / 1896年)

シェイクスピア作品の人物中でも断トツの“飲んべえ”と言えば、ご存じフォルスタッフ。『ヘンリー四世』での天衣無縫ぶりが人気を呼び、続く『ウィンザーの陽気な女房たち』ではご婦人方を相手に恋の大立ち回りと大活躍だ。

『ヘンリー四世』ではフォルスタッフが登場するなり、友人ハルに「シェリーをガブ飲みし、晩飯がすめば上着の前をはだけ、昼過ぎになりゃベンチでごろ寝」と言われる始末。この飲んだくれのポケットから出てきた勘定書には「シェリー酒2ガロン」とある。2ガロン=約9リットルを1人で飲んだとは限

らないが、いずれにせよ尋常じゃない酒量であることは間違いない。勘定書にはこのほか「夕食後のアンチョビとシェリー酒」も入っている。あのでっぶり腹はほとんどシェリーでできているってことか。

このシェリーとは「サック」と呼ばれるスペイン産ワインのこと。1588年、ドレイク率いる英国艦隊がスペインの大艦隊を破った際に2900樽ものシェリーを強奪し、宮廷から出回った「略奪シェリー」はロンドン市中の居酒屋でもブームとなった。1590年に『ヘンリー六世』で劇作家デビューを飾ったシェイクスピアも、おそらくシェリー愛好家だったのだろう。ヘンリー四世やハル王子が実在した15世紀にはまだ飲まれていなかったシェリーを、フォルスタッフにたんまり飲ませている。史実に「いま」風のスパイスを加えるシェイクスピアらしさがここにも。

ちなみに、フォルスタッフが好んだのは砂糖入りシェリー。当時は一般的な飲み方だったようだ。『ウィンザーの陽気な女房たち』ではトーストを浸して食べたり、卵を入れて泡立てて飲んだり、シェリーレシピもいろいろ。

.....  
シェリー樽



## SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2013.3-4

平成 25 年 3 月 15 日 発行 44 号 (隔月 15 日発行) 第 44 号 (3 月 - 4 月)  
発行人: 竹内文則 発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団  
〒338-8506 さいたま市中央区上峰 3-15-1 TEL.048-858-5500